

「男女共同参画に関するアンケート」結果

6月23日から29日までの「男女共同参画週間」にあわせ、みなさんに身近なところから男女共同参画について考えていただこうと、男女共同参画に関するアンケートを実施しました。

結果、963名の方からご回答をいただきました。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さんにはお礼を申し上げますとともに、その結果について下記のとおり取りまとめましたので、ご報告いたします。

(1) アンケート実施期間

平成24年6月22日(金)～平成24年7月18日(水)

(2) アンケート回収状況

対象者数 1,336名
回答者数 963名
回答率 72.1%

(3) 回答者属性

・性別【男性】534名、女性429名

・年代別

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
86人	198人	259人	235人	142人	43人
8.9%	20.6%	26.9%	24.4%	14.7%	4.5%

・地域別

桑名・員弁地域	四日市地域	鈴鹿・亀山地域	津地域	松阪地域
143人	212人	125人	167人	108人
14.8%	22.0%	13.0%	17.3%	11.2%

南勢志摩地域	伊賀地域	尾鷲地域	熊野地域
96人	81人	19人	12人
10.0%	8.4%	2.0%	1.2%

(4) アンケート結果

Q1・Q2は、社会全体及び職場における男女平等についての設問です。

「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方の割合は、Q1(社会全体)の分野では71.7%、Q2(職場)の分野では63.9%といずれも高くなっています。

Q 3 は、固定的役割分担意識についての設問です。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しない(= 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」、「どちらかといえば同感しない」と答えた方の割合は 55.4%と半数以上となっています。

Q 4 ~ Q 6 は、女性の職業へのかかわり方についての設問です。

Q 4 女性の職業へのかかわり方(望ましい形)について、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」と答えた方の割合が 58.5%と半数以上となっています。

Q 5 女性が仕事を辞めずに働き続けるために必要なことについては、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」(74.2%)、「育児や介護のための施設やサービスの充実」(42.2%)、「家族や周囲の理解や協力」(36.2%)などの、育児や介護にまつわる環境の充実と周囲の理解・協力を選んだ方の割合が高くなっています。

Q 6 女性が再就職しやすくなるために必要なことについては、「育児や介護のための施設やサービスの充実」(61.4%)、「労働時間の短縮や残業免除、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(46.7%)、「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(45.2%)などの、育児や介護にまつわる環境の充実と職場における柔軟な勤務制度の導入を選んだ方の割合が高くなっています。

Q 7 ~ Q 9 は、地域において指導的立場につくことについての設問です。

Q 7 地域(自治会やPTA等)において指導的立場につくよう依頼された場合について、「時間に余裕があれば引き受ける」(35.0%)、「知識や能力のある分野なら引き受ける」(24.3%)、「家族など身近な人の協力があれば引き受ける」(13.0%)など、条件付きの方が多いが、引き受けると答えた方の割合が 72.3%と7割を越えています。

Q 8 女性が自治会長やPTA会長などの指導的立場につくことが少ない理由については、「長い間の習慣で、指導的立場につくのは男性と決まっているから」(47.5%)、「女性が活躍できる地域の体制ができていないから」(39.1%)を選んだ方の割合が高くなっています。

Q 9 地域社会において女性が活躍していくために必要なことについては、「家族の理解・支援・協力」(31.5%)、「仕事と生活を両立しやすい環境作り」(31.5%)、「女性が活躍できる体制づくり」(30.0%)を選んだ方の割合が高くなっています。

Q 10 は、国や地方公共団体(県、市町)が行っている男女共同参画推進のためのイベントについての設問です。

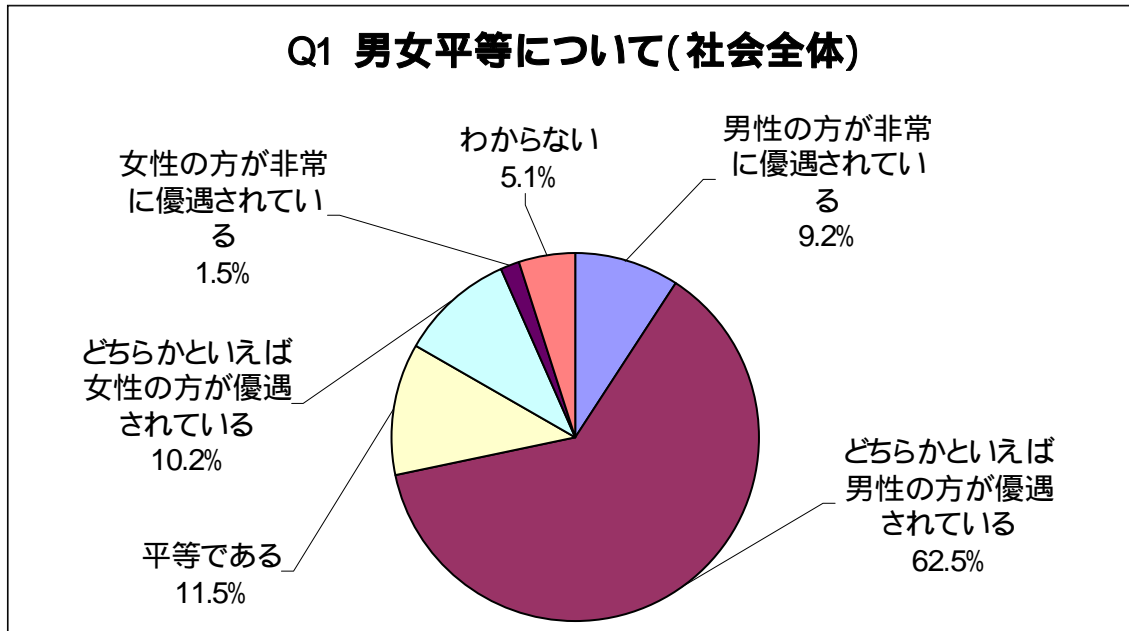
こうしたイベントについて、「知っていて、参加したことがある」(7.7%)、「知っているが、参加したことがない」(38.7%)、「知っているが、参加したいと思わない」(10.6%)を含めると、「知っている」と答えた方の割合は 57.0%と半数以上となっています。

Q 11 は、男女共同参画社会の形成についての設問です。

男女共同参画社会を形成していくために行政が力を入れていくべきことについて、「育児や介護のための施設やサービスを充実し、仕事が続けられるよう支援する」(48.9%)、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを提案する」(35.0%)、「子育てや介護等で仕事を辞めた人の再就職を支援する」(29.6%)と、男女ともに育児や介護等をしながら就労継続ができるよう支援することを選んだ方や、「地方公共団体(県、市町)の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」(27.7%)を選んだ方の割合が高くなっています。

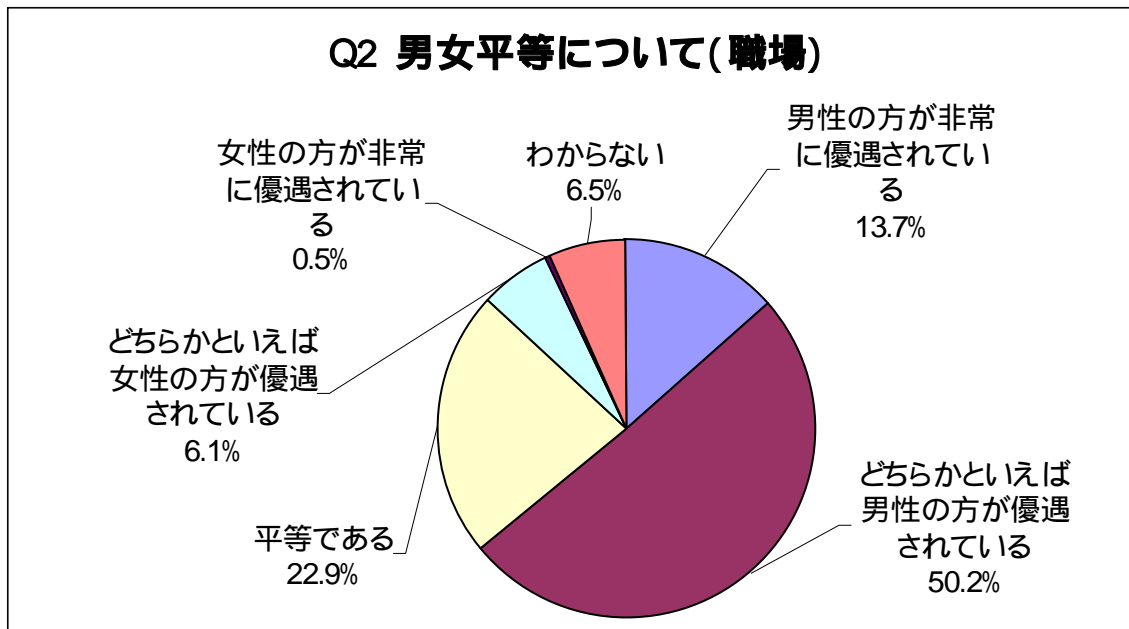
Q 1 男女平等について（社会全体）

あなたは、社会全体で、男女の地位が平等になっていると思いますか。



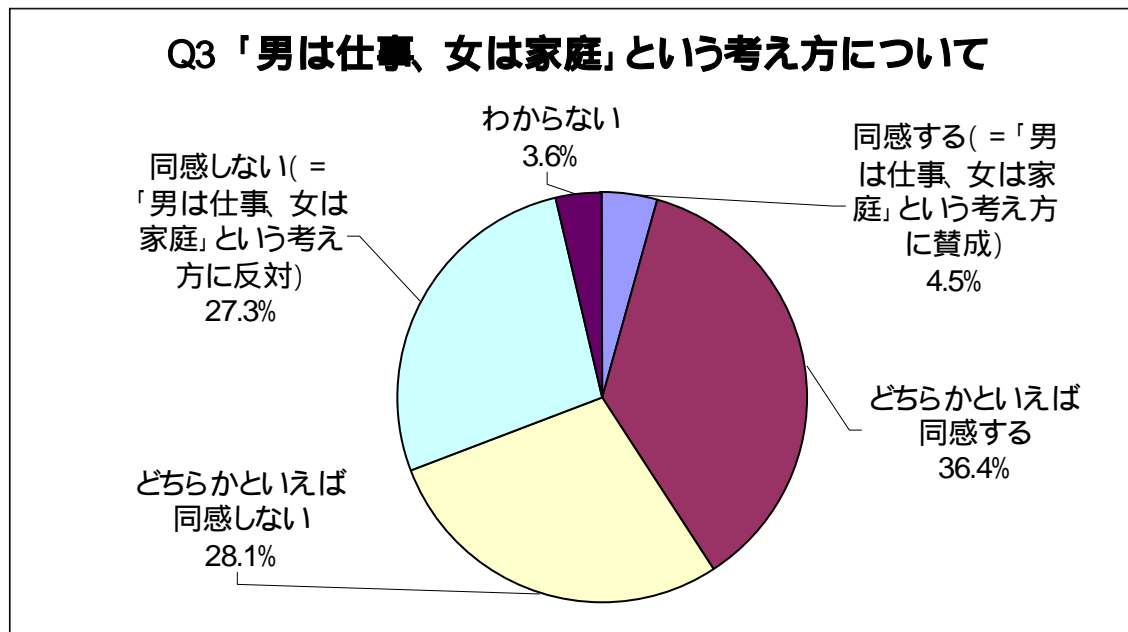
Q 2 男女平等について（職場）

あなたは、職場のなかで、男女の地位が平等になっていると思いますか。



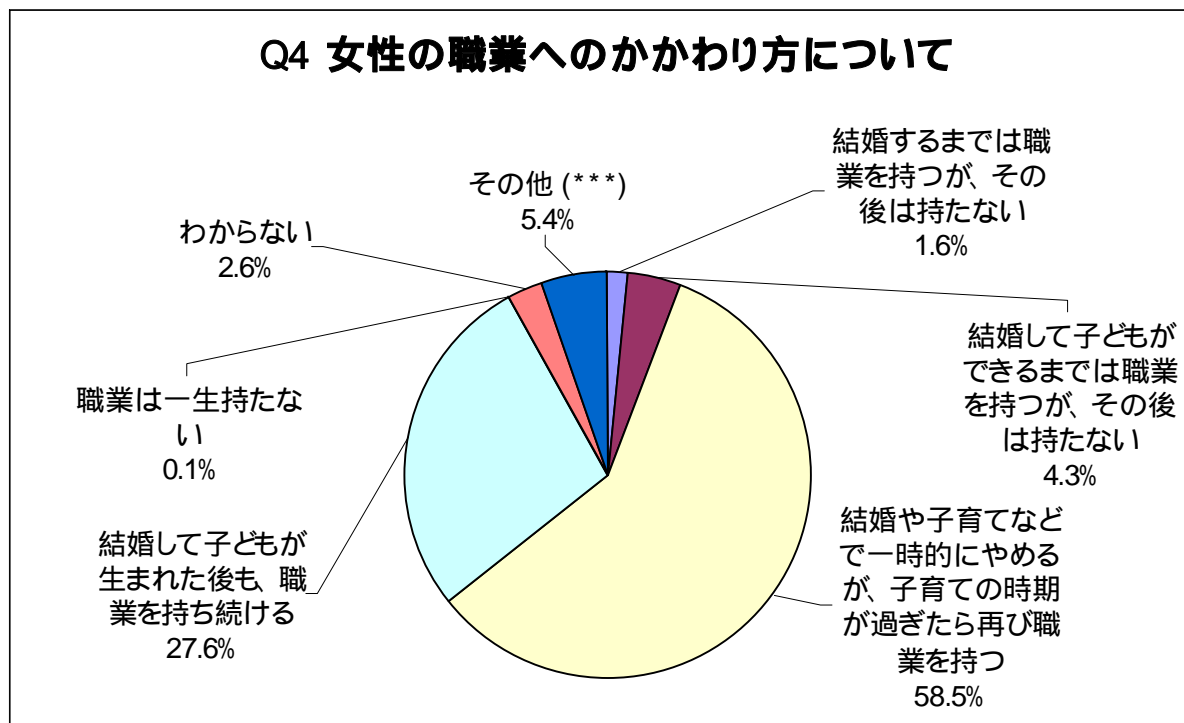
Q3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。



Q4 女性の職業へのかかわり方(望ましい形)について

あなたは、女性の職業へのかかわり方について、どのような形が最も望ましいと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。



Q 5 女性の職業へのかかわり方（就労継続）について

出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うことを3つまで選んでください。

言葉	%
育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり	74.2%
労働時間の短縮や残業免除	29.5%
在宅勤務、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入	31.7%
育児休業・介護休業中の賃金の補てんなどの経済的支援の充実	30.0%
職場における男女の差別的取り扱いの是正	7.3%
育児や介護のための施設やサービスの充実	42.2%
家族や周囲の理解や協力	36.2%
家事や育児、介護等への男性の参加	28.2%
わからない	1.1%
その他	1.3%

Q 6 女性の職業へのかかわり方（再就労）について

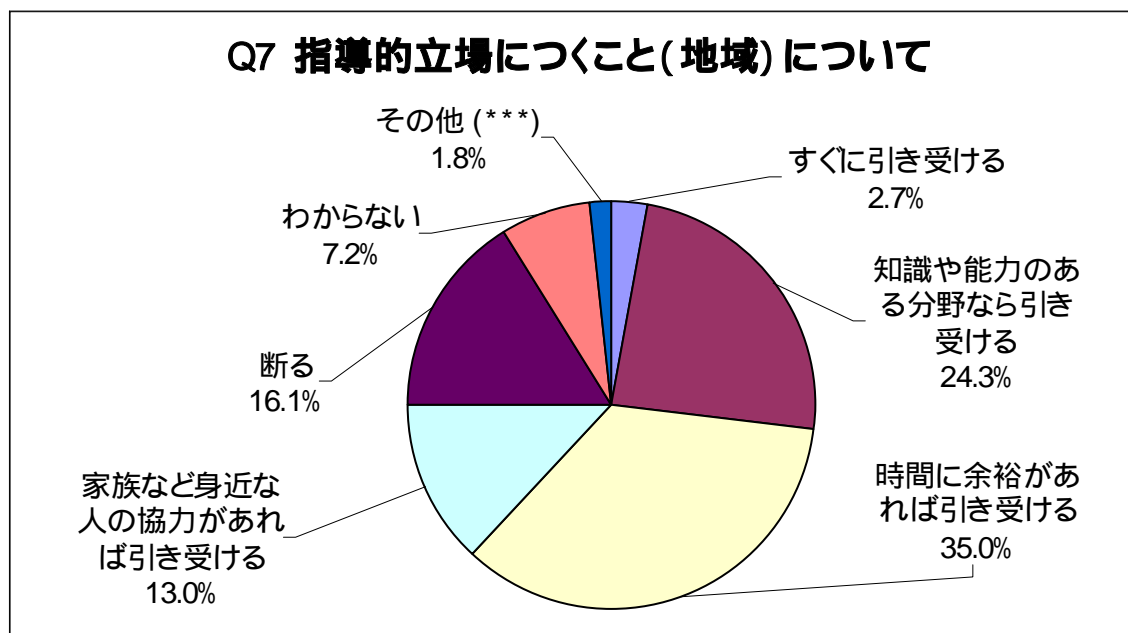
出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うことを3つまで選んでください。

言葉	%
就職情報の積極的な提供	28.9%
就職活動の疑問や不安を解消するための相談窓口の設置	13.5%
育児や介護のための施設やサービスの充実	61.4%
技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	14.8%
育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	45.2%
労働時間の短縮や残業免除、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入	46.7%
家族や周囲の理解や協力	34.1%
家事や育児、介護等への男性の参加	21.5%
実際に再就職した女性の事例を広く紹介	5.2%

わからない	5.2%
その他	1.8%

Q7 指導的立場につくこと(地域)について

あなたは、地域(自治会やPTA等)において、指導的立場につくよう依頼された場合、どうしますか。



Q8 指導的立場に女性が少ない理由(地域)について

地域における活動において、女性が自治会長やPTA会長などの指導的立場につくことが少ないのが現状ですが、この主な理由は何だと思えますか。2つまで選んでください。

言葉	%
長い間の習慣で、指導的立場につくのは男性と決まっているから	47.5%
男性の方が指導力があるから	13.6%
世間一般から快く思われないから	13.4%
女性自身が消極的だから	27.2%
家族や周囲の協力が得られないから	19.4%
女性が活躍できる地域の体制ができていないから	39.1%
わからない	4.6%
その他	4.5%

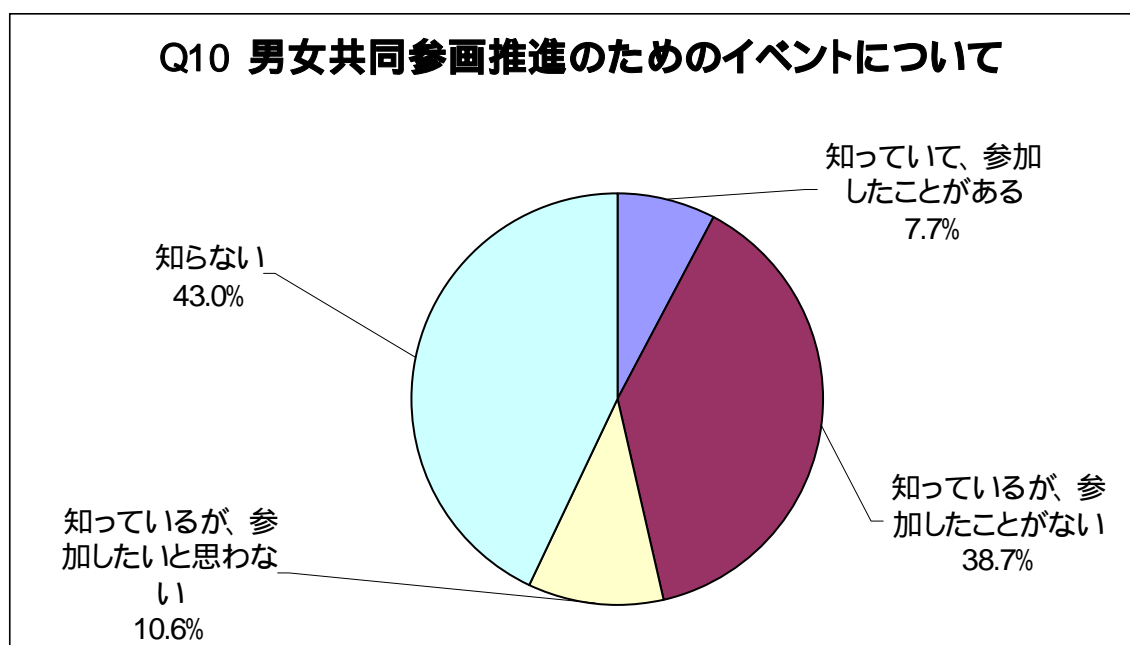
Q 9 女性の活躍推進（地域）について

自治会やPTAなど、地域社会において、女性が活躍していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。2つまで選んでください。

言葉	%
固定的役割分担意識(「男は仕事 女は家庭」)の見直し	23.6%
家族の理解・支援・協力	31.5%
きっかけ作り、実践の場への参加	27.1%
仕事と生活を両立しやすい環境作り	31.5%
女性の意識改革	24.6%
女性が活躍できる体制づくり	30.8%
女性が自らの能力を高める機会の提供	8.5%
わからない	2.5%
その他	1.8%

Q 10 男女共同参画推進のためのイベントについて

国や地方公共団体（県、市町）では男女共同参画社会の実現のため、意識啓発のイベントや役立つ情報が得られる講座などさまざまな活動を行っていますが、これらを知っていたり、参加したりしたことはありますか。



Q 1 1 男女共同参画社会について

「男女共同参画社会」とは、一人ひとりが性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる社会のことですが、男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。3つまで選んでください。

言葉	%
男女共同参画社会の実現をめざした法律・条例・制度の制定や見直しを行う	21.6%
地方公共団体(県・市町)の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	27.7%
民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	20.2%
各種団体の女性リーダーを養成する	14.3%
男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	6.2%
職場において男女の均等な取り扱いが図られるよう企業等に働きかける	21.2%
仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを提案する	35.0%
育児や介護のための施設やサービスを充実し、仕事が続けられるよう支援する	48.9%
子育てや介護等で仕事を辞めた人の再就職を支援する	29.6%
男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	9.6%
女性に対する暴力(セクハラ・DV等)の防止や被害者への支援を充実する	5.5%
男女共同参画社会づくりに役立つ情報や、男女の平等と相互の理解、協力などについて広報を充実する	11.0%
わからない	3.5%
その他	3.3%